

勝山市総合行政審議会（第14期第6回） 結果概要

- 開催日時 平成29年2月2日（木） 午後7時～午後9時00分
- 開催場所 勝山市役所3階 第1会議室
- 出席者等 出席委員：14名
説明者：総務部秘書・広報課、総務課、財政課
事務局：総務部未来創造課

1. 会長あいさつ

2. 議題「第5次勝山市総合計画改定版（案）について」

（1）基本構想 について

- 会長
 - ・内容についてこれでよいか。
- 委員
 - ・これでよい。

（2）基本計画 第6章 人口減少対策と地方創生実現に向けた取組み について

- 会長
 - ・内容についてこれでよいか。
- 委員
 - ・これでよい。

（3）基本計画 第7章 勝山市の基盤となっている各地区の地域力向上プロジェクト について

- 会長
 - ・内容についてこれでよいか。
- 委員
 - ・これでよい。

（4）基本計画 第1章～第5章 について

第1章 全ての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

1. 市民が主体となったまちづくり

(1) 市民の市政への参画推進（3頁） について

●会長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 市民活動の推進（4頁） について

●委員

- ・指標について暦年か年度か統一できないか。

○説明者

- ・統一できないので、どちらの指標かを標記する。

●委員

平成28年度の実績について記載のある箇所とない箇所があるがその対応はどうするのか。

○事務局

- ・実績見込みが把握できるものは実績を記載し、「実績」もしくは「見込み」と記載する。

●委員

- ・ジオガイド要請件数の目標値を10件ずつ増加させている根拠は何なのか。

○事務局

- ・平成28年度はほぼ実績値である。急激な伸び率であったため、少し抑えて目標設定し、毎年10件の増加としている。

●委員

- ・ジオパークガイド養成講座受講者人数の指標について、市の人口が減少する中で、この数値は現実的な設定なのか。受講者は全て市内の方なのか。

○事務局

- ・現実的なものであり、受講者は全て市内の方である。

(3) 広報の充実 について（6頁）

●委員

- ・HPのアクセス数の目標値を大きく上方修正しているのはなぜか。

○事務局

- ・実績が当初の想定より大きく伸びた。Facebookやトップページ（オモシエかっちゃん）の導入、スマートフォンの普及が関係している。

●委員

- ・市民に幅広く情報が伝わるような方策をとっていただきたい。ここ数年、PR動画を作る自治体が増えているが、市ではインパクトのあるPR動画は作成しないのか。

○説明者

・検討していきたい。

●委員

・市の広報紙は市民にとって特に貴重な情報源であり、目に触れることも多い。企業PRページをもっと増やせないか。広告収入を増やすことができ、何より地元企業のためにもなると思う。

○説明者

・ありがたいことにニーズは多い。記事とのバランスを考えながら検討したい。

(4) 情報公開の推進、個人情報の保護 について (7頁)

●会長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

2. 効率的、効果的な行財政の運営

(1) 政策基本目標管理および行財政改革の推進 について (8頁)

●会長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

(2) 公平・適正な税制運営等による歳入の確保 について (8頁)

●委員

・ふるさと納税の世間の関心は高い。旬のうちに積極的に外部へ発信し、工夫したチャレンジをしていただきたい。市の収入に直接的につながる事項を市民に公表することは大切だと思う。

○事務局

・ふるさと納税にはいろいろな考え方がある。小さい頃に勝山市で受益を受けた方が、都会に出ても地元にお返しするというのが本来の趣旨だが、最近、少し変化している。その中で、総務省からも行き過ぎたお礼には注意するようという指導も出ている。税理論上の本来の姿を優先するのか、収入を追求するのかの方針決定はまさに政策的な部分である。今後の方向性について、庁内でしっかり議論していきたい。なお、お礼品の種類を増やしたり、お金を払う手段としてクレジットカードを使えるようにする等の努力はしている。

●委員

・市税徴収率の目標値が上がらないのはなぜか。

○事務局

- ・徴収率については、現状でも県内9市ではトップクラスの数値であるが、さらに0.1%上げるように担当課へ打診し、目標を修正中である。

○説明者

- ・徴収率を100%にすることは現実的に難しいところがある。国の普通交付税の目安から見ても、本市の徴収率は高いところにある。

●委員

- ・重点項目において、家屋台帳の整備が削除されているが、家屋評価はどのように行なっているのか。航空写真による管理はしないのか。

○説明者

- ・毎年1度、職員が全地区をパトロールしているほか、都市計画区域の確認申請の書類によるチェックや農地転用の申請書類など複数の手段で確認作業を行っている。航空写真については平成6年に行って以降、コスト面の問題もあり撮ってはいない。

○説明者

- ・なお、毎年、航空写真を撮っているのは県内では福井市のみである。(3000万円程度の経費が必要)本市でも来年度から3年間で実施する方針で検討しているところである。

●委員

- ・ガバメントクラウドファンディングについて、平成29年度以降の事業予定は決まっているのか。

○事務局

- ・現在のところ決まっていない。

●委員

- ・ガバメントクラウドファンディングを平成29年度に3件実施するという指標について、その事業を企画することはかなり難しいのではないかと。想定した資金が集まらない場合に、市費を投入することになってしまうのでは、ガバメントクラウドファンディングを行う意味が無くなってしまふ気もする。

○事務局

- ・ガバメントクラウドファンディングを実施するために企画を考えるというよりは、すでに行いたい事業があつて、その事業の必要性を広くPRすることや財源の確保を目的とするというのが本市のスタンスである。そういった面で積極的に活用していきたいと考えている。

●委員

- ・ガバメントクラウドファンディングの指標について、金額ベースとした方が分かりやすいのではないかと。

○事務局

- ・プロジェクトの内容により事業費が大きく異なってしまうため、金額ベースより件数の方が適当だと判断した。

●委員

- ・実施件数ではなく、全体事業費への補てん率とすることもできる。今後、検討してほしい。

(3) 効率的、効果的で持続可能な財政運営 について (9頁)

●会長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(4) 公共施設の効率的運用 について (10頁)

●委員

- ・公用車に占めるエコカーの台数について、従来の指標では25台くらいまで増やすことを目標としていたようだが、大幅に下方修正(9台)しているのはなぜか。

○説明者

- ・当初の目標では、そういう想定をしていたが、エコカーやハイブリッドカーは価格が高いことから導入は現実的にかなり厳しかった。そのため、現在は方針を若干変更し、普通自動車から軽自動車(全59台中35台)へ切り替えることとしている。そのために、今回の指標設定となった。

(5) 行政組織の効率的運用 について (11頁)

●委員

- ・市役所の窓口業務について、職員の対応は非常に感じがよいと思う。なぜ指標を下方修正したのか。

○事務局

- ・当初の指標設定時において窓口業務への満足調査を行ったものの、調査対象数がわずかだったことから、数値が極端に大きくなってしまった。今回の改定にあわせ、きちんとしたアンケートを再度実施し、正確な目標設定に修正することとした。

(6) 広域行政の推進 について (13頁)

●会長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

3. 多様な交流活動の推進

(2) 国際交流の推進 について (14頁)

●委員

- ・国際交流をすることの最終的な目標は何なのかを教えてください。

○事務局

- ・基本的には、青少年の育成(国際感覚豊かな人材を育てる)を中心に行ってきた。現在行っているハワイの事業についても同様である。アスペンについては音楽祭など文化交流も目的

としていた。

●委員

- ・計画内には「中国」というキーワードが登場する。行政が外国にセールスを実施した回数を指標としてもよいのではないかと思う。

○事務局

- ・現状では、職員が海外へ公費で行くことはほとんどない。予算的になかなか厳しいところがある。

(3) 都市間交流（国内）の推進 について（15頁）

●委員

- ・基本的な考え方の文面について、「一層の連携・交流を図る」という書き方にしてはどうか。「推進していきます」の部分についても、具体的に推進して何をしたいのか（たとえば勝山ファンを確保する等）を記載してほしい。

また、施策指標について都市間交流事業等への参加者数としているが、人数だけでは効果が見えにくいと思う。参加する人は重なることもよくあるのではないか。実施件数を指標とする、もしくは交流した都市の件数等を指標としてはどうか。

○事務局

- ・検討する。ただし、指標については極力、インプットのなものではなくアウトカムもしくはアウトプットの指標にしたいと考えている。

●委員

- ・国内において、勝山市に友好都市や姉妹都市はあるのか。自治体が連携していることで民間団体同士のつながりが生まれ、交流もしやすくなると思う。なにかアクションは起こせないか。

○事務局

- ・今後、具体的な話が少し出てきた際には前向きに検討したい。

(4) ふれあい市民との交流 について（16頁）

●委員

- ・基本的な考え方の文面について「～とともに」という表現が続いているので、修正をお願いしたい。また、ふれあい市民の指標について、Facebook「いいね」登録者も含むこととなっているが、詳細な関係はどうなっているのか。「いいね」をすると、自動的にふれあい市民となるのか。

○事務局

- ・そのような設定をしているが、指標設定を再度検討する。

(5) U・Iターンの推進 について（18頁）

●委員

- ・市の支援を受けて転入した方をU・Iターン者の数とみなしているのか。

○事務局

- ・そうではない。転入者について、定住を目的とするのかどうか把握することはできないため、U・Iターン者数は正確に把握することは難しい。行政が実施すべきことはU・Iターンを希望する方への支援である。それを成果としたいと考えている。

●委員

- ・大阪から勝山市に来ている子を知っているが、市の支援制度を全く知らない。そのあたりのPRが不足している気もする。

○事務局

- ・たとえば転入時に市民課窓口でチラシを配布する等の工夫をしていきたい。

●委員

- ・市内事業所への周知も手段の一つだと思う。

(6) 官学連携事業の推進 について (19頁)

●会長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(7) シティプロモーションの推進 について (20頁)

●委員

- ・指標で設定している「勝山市の魅力度ランキング」について、こういった数値なのかが分かりにくい。きちんとした解説が欲しい。

○事務局

- ・注釈を設ける等、記載を工夫する。

4. 人権・男女共同参画社会の実現

(1) 人権尊重の社会づくりの推進 について (21頁)

●会長

- ・内容についてこれでよいか。

●委員

- ・これでよい。

(2) 男女がともに思いやり責任を担い合う社会の実現 について (21頁)

●委員

・「勝山型男女共同参画社会」という記載があるが具体的にどういったことを意味しているのか。

○事務局

・勝山市は、3世代同居率や親の共働き率が高いという数値結果が出ている。こういったことを活かして、特に女性の社会参画を推進したいということである。

5. 各地区、各集落の地域力向上の実現

(1) 市民が主体となった地域力の向上 について (23頁)

●会長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。

第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

6. 安全安心に暮らせるまちの実現

(3) 総合的な防災体制の確立 について (42頁)

●委員

・各地区の防災無線は実際、聞き取りにくいところがある。逆に緊急メールサービスの充実の方がより大切なのではないか。例えば、高齢者に対し（スマホ普及や）設定の方法を講習する等の対策を打つと良いと思う。

○説明者

・おっしゃるとおりである。市では防災情報を1つの伝達手段に偏ることなく、複数の手段による呼びかけるべき（多チャンネル化）だと考えており、そういった対策を実際に講じている。防災無線やメールサービスを整備した後に、防災FMラジオのような新たな方法に取り組んでいきたい。

●委員

・ケーブルテレビの導入も裕子な手段であり、検討してほしい。計画内に記載することまでは求めない。

(5) 防災の推進 について (44頁)

●会長

・内容についてこれでよいか。

●委員

・これでよい。